# 平成24年度「総合的な学習の時間」実践報告

２年次会　竹内義晴　奥村準子　對﨑加奈子　熊倉悠貴
北原立朗　後藤巻子　安達昌宏　小澤真尚

学習指導要領の改訂に伴い、本校はH23年度からカリキュラムを大きく変更し「総合的な学習の時間」もH23 年度から２年次で２単位とした。２年次（２単位）での２年目の取り組みを本稿では、「プロジェクトワーク」「オーストラリア校外学習」事前事後指導の考察および１年間の授業の取り組みの概要を述べる。

キーワード：総合的な学習の時間　キャリア教育、プロジェクトワーク、海外校外学習、協同的活動

## ０．はじめに

### （１）新教育課程への移行期にあたり

本校では新学習指導要領の告示を受け、平成２３年度入学生から教育課程の改訂をおこない、「総合的な学習の時間」については、土曜日集中型で２単位の授業時間を確保した。これまでは各学年１単位でおこなっていたが、１年次に「キャリアデザイン（２単位）」が新たに開設され、３年次の「卒業研究」は従来の２単位から１単位増えて３単位となり、その間を繋ぐ時間として位置づけられた。教育課程移行期の平成２４年度は、次年度からの新学習指導要領の施行を意識した授業展開を計画した。

平成２１年３月に告示された新学習指導要領（高等学校）における「総合的な学習の時間」の目標は以下のとおりである。

*横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。*

現行の学習指導要領から追加された項目として「協同的に取り組む態度を育てる」ことが挙げられる。これは、平成２３年１月の中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」においても、「若者の成長・発達を巡っては、身体的には成熟傾向があるにもかかわらず精神的・社会的自立が送れる傾向がある」ことが指摘され、その背景として「幼少期から様々な体験の機会や異年齢者との交流が乏しくなったこと、豊かで成熟した社会にあって人々の価値観や生き方が多様化したことなどが考えられ、そのことが、子どもの発達課題の達成を困難にしている」ことを挙げている。つまり、意図的な「協同」すなわち複数の人間が役割分担をおこないながら一つの到達目標にむけて作業したり学び合うことを活動に取り入れることで、中教審答申の指摘する子どもの発達課題解決の一助となると考えられる。

### （２）今年度の学習活動のねらい

こうした背景をふまえ、今年度の「総合的な学習の時間」では、特に１学期の「プロジェクトワーク」において「講座構成員相互の協同的活動」に重点を置いた探求活動の展開を計画した。また、２学期の活動では、オーストラリアへの校外学習に向けた国際理解に関する講義、各クラス６名の校外学習委員（総合的な学習の時間も兼任する）の企画による委員会活動を中心に展開した。本校はＣＩＳ（国際教育推進委員会）という校内組織が中心となって海外の高校生との交流を積極的におこなっている。２年次校外学習においてもオーストラリア・アサートン高校との学校交流を計画し、校外学習委員を中心とした交流会の企画準備をおこないながら問題解決能力の育成と自己の在り方生き方を考えさせる契機とした。さらに、これらの学習活動全体をとおして、昨年度の「キャリアデザイン」の自己評価活動（第 15 回総合学科研究大会資料集 p.30 参照）から課題となっている「ソーシャル・スキル」の「質疑応答のマナーを身に付ける」ことにも重点を置き、学年全体の講義を計画した。

３学期の学習については、本校の体系的なキャリア教

育の「つながり」を意識させる上でも重要な時期である。具体的には「卒業研究」の準備に入るわけであるが、前述の中教審答申においても「2．キャリア教育・職業教育の基本的方向性」のなかで、キャリア教育の意義・効果の3点目に「学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連づけ、将来の夢と学業を結び付けることにより、生徒・学生等の学習意欲を喚起することの大切さが確認できる」とある。キャリア教育の実践において生涯学習の視点に立ったキャリア支援形成が重要であることは学校教育現場において認識が浸透してきたが、高等学校の3年間は、上級学校へ進学する生徒にとっても大きな分岐点にあたる。

1年次の「産業社会と人間」で時間割選択をおこない、ライフプランを考え発表し、「キャリアデザイン」の授業で「総合学科での学び方の基礎、学習習慣付け」をおこなった生徒たちは、2年次に入って各専門科目群の学習をおこないながら、「総合的な学習の時間」において「学びのスキル」「ソーシャル・スキル」「マネジメント・スキル」を深化させ、異文化理解を通して自らの在り方を考え、「卒業研究」によって総合学科における「学び」の集大成を修めて卒業していく。学びの連続性と、「将来の夢と学業を結びつける」ことによる学習意欲喚起を生徒に意識させることが、2年次「総合的な学習の時間」のまとめ、あるいは3年次「卒業研究」のつなぎとして重要である。

以上の背景をふまえ、以下に今年度12月末までの実践を報告する。活動の詳細については授業公開における生徒の発表をご覧いただきたい。

1．目標・ねらい

（1）本校での学びを深めるための「学びのスキル」を身につける。

（2）場面に応じた行動を取る「ソーシャル・スキル」を身につける。

（3）自己の生活をコントロールできる能力（マネジメント・スキル）を身につける。

（4）さまざまな活動によって「自分は何者なのか」を考え、卒業後の進路を考える契機とする。（1学期）

（5）校外学習へ出発する前に、自国の文化と異文化を理解する。（2学期）

（6）1年次の「産社・キャリアデザイン（PUPA）」と3年次「卒業研究」をつなぐ科目として、学びのテーマを意識する。（3学期）

2．開講形態

（1）実施日・実施時間：各月偶数週の土曜日、
8：40～11：20（10分間の休憩を挟む）
1限08:40－9:30（休み時間5分）
2限09:35－10:25（休み時間5分）
3限10:30－11:20

（2）担当者：8名（2年次担任団）

1学期：各担当者が1学期を通してひとつの講座を当する。生徒は学期のはじめに希望調査によって講座の所属を決める。

2学期：学年またはクラスごとの授業を展開予定。

3学期：前半は担任団で学年またはクラスごとの授業展開、後半は次年度卒業研究担当者の協力を依頼して
各科目群ごとの授業展開を予定。

3．開始までの流れ（1学期）

- 担当者は事前に授業計画を提出（A4用紙1枚、所定の様式）
- 第1回までに（1年次オリエンテーションの時間を利用）：
  - ① 授業計画配布・希望調査（1年次生は授業計画を見て希望する講座を選ぶ）
  - ② 調整後、参加講座の発表

4．授業の流れ（1学期）

：次のステップを必ず盛り込む。

※アイスブレイク：グループ内でのラポール（親密な信頼関係）を形成し、あとの活動を楽しく親密な雰囲気で進められるようにする。

（1）「学習活動の計画・記録」の記入、チェックの時間（各授業日の1時限目）を確保し、生徒と授業担当者の面談または記録の回覧をおこなって、記録状況のチェックや生徒の生活状況を確認・適宜指導する。

（2）「話し合う」

1学期のゴールとして8月の免許更新講習における成果発表活動を予定しており、その発表（発信）方法について、各講座ごとにディスカッションによって決定する。特に「チームワーク（協働）」によって成果をまとめることを意識させる。

（3）「知る（調べる）」
講義・文献調査・ビデオ視聴等を通して、テーマについての知識・理解を深める。
（4）「考える（整理する・まとめる）」
ディスカッション・アンケート調査・インタビュー活動などを通して、テーマについてより深く考察する。
（5）「発表する（伝える・発信する）」
考察したことについて（レポートを作成するとともに）、グループ内で成果発表を準備する。
（6）「批評する（評価する）」
自己評価や相互評価活動を通して、パフォーマンスや作品を客観的に評価したり他者との論戦を通して完成度を高めたり今後の方向性を考える契機とする。

5．評価と基準
（1）評価
（5段階の仮評価、通知表・指導要録には文章化して記載する）
（ア）出席：1学期につき2回（6時限分）を越える欠席で評価「0」とする。
（イ）活動記録：毎回の活動を記録したもの。全体の10%。
（ウ）成果物：活動を通して考察した内容を（レポートに）まとめたもの。30%
（エ）発表：発表のパフォーマンス。全体の30%。
（オ）出席態度：授業に参加しようとする意欲・出席状況。全体の約10%。
（カ）「学習活動の計画・記録」の記入：記入・提出状況。全体の20%。記録方法については、下記のとおり。
① 1年次PUPAのファイルを継続使用するか、オリジナルの手帳等を用意してもよい。
② 記載する項目は、A「起床・就寝時間」、B「活動の計画（予定,To Do List)」、C「学んだこと」の3点。
③ 年度初め（5月12日）に配布する資料は、「年間計画」「科目の目標・評価規準」

（2）評価規準

| | (ア)学びのスキル | (イ)ソーシャル・スキル |
|---|---|---|
| ①「知る」 | ・文献を探す（図書館の利用など）<br>・講義を聞く<br>・知った内容をまとめて記録する | ・人の話を聞くときの適切な態度を取る<br>・不明な点について質問する |
| ②「考える」 | ・調査のしかたを身につける<br>・問題解決の方法を提案する<br>・他者と意見を交換する<br>・他者の意見と自分の意見を区別する | ・依頼のしかた、職員室でのマナーなどを身につける<br>・ディスカッションへの参加のしかたを身につける |
| ③「発表する」 | ・レポートのまとめ方を身につける<br>・効果的な発表のしかたを身につける | ・適切な体裁・文体でレポートを書く<br>・発表時のマナーを身につける |
| | ・他者の発表を評価する<br>・他者の発表に対し質問する | ・評価を受け止める態度を持つ<br>・質疑応答のマナーを身につける |
| (ウ)マネジメント・スキル | | |
| ・「学習活動の記録」（記入・ふりかえり）を通じて、自分の学習活動の計画を立て、やるべきことに取り組んでいるかを確認する作業を継続的に行い、自律的に学習活動を行う能力を高める。 | | |

6．授業計画の留意点
（1）土曜日に登校するだけの価値のある「感動体験」を与えられる授業を提供することが望ましい。
（2）少人数での展開し、クラスを超えたグループ構成により学びの楽しさを伝えられることが望ましい。（1学期）
（3）実習や演習などを盛り込み、できるだけ生徒の主体性を促す授業展開が望ましい。
（4）土曜日、午後の予定がないなどの条件を活かし、校外での学習を含めることも考慮したい。
（5）「前にできなかったことができるようになったこ

と」「以前よりよくなったこと」を見つけ評価することで、自己肯定感の向上を支援したい。

7．年間計画

| 学期 | | 授業日 | 概要 |
|---|---|---|---|
| 1学期 | 1 | 4月11日(水) | ガイダンス(ねらい・概要・評価について) |
| | 2 | 5月12日(土) | 講座発表、各講座のアイスブレイク |
| | 3 | 5月26日(土) | 授業①(詳細は後掲「各講座の実践報告」参照) |
| | 4 | 6月9日(土) | 授業②(〃) |
| | 5 | 6月23日(土) | 授業③(〃) |
| | 6 | 7月13日(金) | 進路ガイダンス後、成果発表準備(授業④) |
| | 7 | 8月3日(金) | 成果発表準備(リハーサル) |
| | 8 | 8月4日(土) | 教員免許状更新講習会(成果発表) |
| 2学期 | 1 | 9月8日(土) | ベネッセ・スタディサポート |
| | 2 | 9月15日(土) | 卒業研究グループ別発表会見学 |
| | 3 | 10月6日(土) | 講演① やりたい仕事に就くために高校生のうちにしておきたい3つのこと |
| | 4 | 10月27日(土) | 講演② オーストラリア文化講演 |
| | 5 | 11月10日(土) | 校外学習委員(学習係)による事前学習、しおり作成 |
| | 6 | 11月17日(土) | 校外学習交流会準備・しおり読み合わせ |
| 3学期 | 1 | 12月1日(土) | 校外学習交流会準備(リハーサル) |
| | 2 | 1月12日(土) | 「卒業研究」事前指導① |
| | 3 | 1月26日(土) | 「卒業研究」事前指導② |
| | 4 | 2月9日(土) | 進研模試 |
| | 5 | 2月16日(土) | 卒業生と語る会(進路指導部) |
| | 6 | 2月21日(木) | 研究大会(成果発表) |
| | 7 | 3月16日(土) | 「卒業研究」構想発表会 |

この他に、ＬＨＲを利用して進路指導部の協力を受けながら「総合的な学習の時間」の補完的活動をおこなった。

10月18日（木）５限　進路指導部主事による講話
11月　１日（木）５限　講演③　海外旅行のマナーと危機管理
11月15・22日（木）５限　ヒューマン国際大学機構よる英会話出前授業
12月13日（木）5･6限　ライセンスアカデミーによる「卒業研究ガイダンス（進路相談会）」
12月20日（木）５限　校外学習ふりかえり（自己評価）

8．生徒の自己評価と１学期の実践報告

（1）生徒の自己評価

１学期の活動の成果発表をおこなった８月４日は、教員免許状更新講習の授業公開日であり、保護者を含め50名程度の来客に対して発表をおこなった。自己評価は質問紙調査の形でおこない、９月上旬に校外学習委員が集計作業をおこなった。結果は<表１>のとおりである。

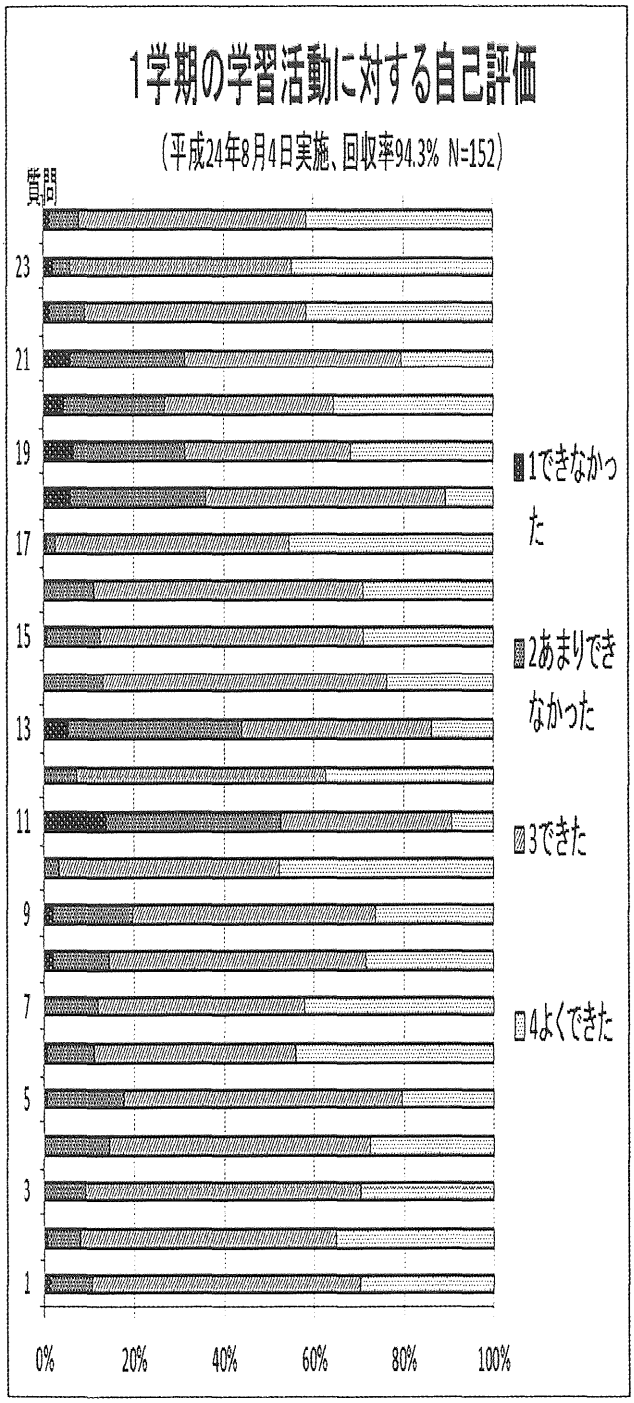
質問項目の１～２４は<表２>のとおりである。１年次の６月におこなった同様の調査から、平均値の変容を数値化してみると、「６．他者と意見を交換できた」「１１．発表内容に対して積極的に質問できた」「２０・２１（学習活動の記録に対して）自分なりの工夫ができ、記録の活用によって生活を豊かにできた」という項目について向上が見られた。一方で、「３．調査の仕方が身についた」「７．自分の意見を持つことができた」「１０．他者の発表をよく聞けた」については自己評価が若干低下した。

向上した項目については、継続的に指導をおこなった「学習活動の記録」が定着し、自分の学習計画の管理にある程度の効果が見られたのではないかと分析する。また、２年次になってクラス替えや各専門科目の授業が始

まり、学習するコミュニティが広がったことも影響し、他者との意見交換や質疑応答が１年次よりも向上したことも考えられるが、継続的な指導の成果もあったと分析する。その一方で、自己評価が低下した点については、１年次の「キャリアデザイン」の授業よりも高度化した内容、あるいは時間的な課題、学習意欲の問題などが考えられ、今後の課題としたい。

２年次のねらいの１つであった「協同的に取り組む態度を育てる」点については概ね達成できた。

＜表１＞




＜表２＞

よくできた「4」・できた「3」・あまりできなかった「2」・全くできなかった「1」の4段階回答の平均値を算出した。

| | | Ⅰ 学びのスキルについて | 回答の平均値(a) | 1年次6月の平均値(b) | 変容度(b)-(a) |
|---|---|---|---|---|---|
| 知る | 1 | 文献等、資料を適切に探せたか | 3.18 | 3.20 | 0.02 |
| | 2 | 講義等で学んだ内容をきちんと記録できたか | 3.26 | 3.16 | 0.10 |
| 考える | 3 | 調査の仕方が身についたか | 3.20 | 3.28 | -0.08 |
| | 4 | 問題点(課題)を明らかにすることができたか | 3.13 | 3.13 | 0.00 |
| | 5 | 問題点(課題)を自ら解決できたか | 3.02 | 2.89 | 0.13 |
| | 6 | 他者と意見を交換できたか | 3.32 | 3.02 | **0.30** |
| | 7 | 自分の意見(考え)を持つことができたか | 3.30 | 3.46 | -0.16 |
| 発表する | 8 | レポートの内容を整理してまとめることができたか | 3.12 | 3.04 | 0.08 |
| | 9 | 効果的な発表の仕方が身についたか | 3.05 | 2.91 | 0.14 |
| | 10 | 他者の発表をよくきけたか | 3.44 | 3.55 | -0.11 |
| | 11 | 発表内容に対して積極的に質問できたか | 2.43 | 2.24 | **0.19** |
| | | Ⅱ ソーシャル・スキルについて | | | |
| 知る | 12 | 人の話をきく際の態度は適切であったか | 3.30 | 3.35 | -0.05 |
| | 13 | 必要に応じて、外部の人に不明な点について質問できたか | 2.64 | 2.51 | 0.13 |
| | 14 | 依頼の仕方等、社会的なマナーが身についたか | 3.11 | 3.00 | 0.11 |
| 発表する | 15 | 適切な体裁・文体でレポートが書けたか | 3.16 | 3.12 | 0.04 |
| | 16 | 発表時のマナー(声の大きさ、言葉遣い等)が適切であったか | 3.18 | 3.16 | 0.02 |
| | 17 | 他人の評価(意見)を受け入れることができたか | 3.42 | 3.47 | -0.05 |
| | 18 | 質疑応答がきちんとできたか | 2.69 | 2.59 | 0.10 |
| | | Ⅲ マネジメント・スキルについて | | | |
| | 19 | 学習活動の記録を毎日きちんと書けたか | 2.93 | 2.79 | 0.14 |
| | 20 | 記入にあたり、自分なりの工夫ができたか | 3.04 | 2.72 | **0.32** |
| | 21 | ノート(記録)を活用して自分の生活を豊かにできたか | 2.83 | 2.56 | **0.27** |
| | | Ⅳ 協働による活動・作品制作について | | | |
| | 22 | 役割分担をおこなって活動できたか | 3.31 | | |
| | 23 | 協力する態度をもって活動できたか | 3.37 | | |
| | 24 | 協働(同じ目的のため協力して働く)による作品制作はできたか | 3.32 | | |

## （2）実践報告（各講座内容と成果と課題）

| No.1 | テーマ　日本文化の形成について考える～日本の風土と自然観・美意識～ | |
|---|---|---|
| 使用教室：2AHR | | 担当教諭（教科）：竹内義晴（公民・福祉） |

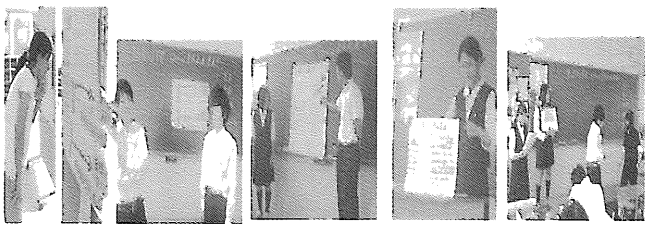
講座の目標：
私たちが生きる基盤としての日本の風土の特徴を理解すると共に、日本人の自然観と・美意識や倫理観と生き方などを考察し、日本文化の源流を知る。

| 活動内容 | | | |
|---|---|---|---|
| | 第1回 | 4月11日 | ・全体ガイダンス（多目的室） |
| | 第2回 | 5月12日 | ・「学習活動の記録」振り返り、確認　・アイスブレイク・授業の概要説明　・『日本の風土と自然観・倫理観』（講義）・課題1提示 |
| | 第3回 | 5月26日 | ・「学習活動の記録」振り返り、確認　・『日本人の美意識』（講義）・課題1の発表（20名）とディスカッション課題2提示と班分け |
| | 第4回 | 6月9日 | ・「学習活動の記録」振り返り、確認　・課題2：班毎発表準備（分担決め・ポスター等の作成）、発表会のやり方を考える |
| | 第5回 | 6月23日 | ・「学習活動の記録」振り返り、確認<br>課題2：5班の発表と評価表の記入およびディスカッション<br>課題3：成果発表会の代表2班の選出と統合した2班のメンバーを確定 |
| | 第6回 | 7月13日 | ・「学習活動の記録」振り返り、確認<br>・課題2の5班の掲示用成果物の整理<br>・課題3：発表する統合2班のポスターの作成・発表会の準備 |
| | 第7回 | 8月3日 | ・「学習活動の記録」振り返り、確認<br>・リハーサル（アパレル実習室）発表しない班の成果物を掲示 |
| | 第8回 | 8月4日 | ・「食文化グループ」との合同成果発表会（計4班　アパレル実習室）<br>・「学習活動の記録」振り返り、確認 |

担当者からのメッセージ：甘い言葉に騙されない人を歓迎します
準備が必要なものなど：筆記用具、柔軟な思考力、USB

【本講座の成果】思っていたより問題意識の高い生徒が集まり、ディスカッションなど活発に行うことが出来た。自己管理のための日誌も10段階で評価をつけることにより、書き方なども質問してくるなど意欲的な生徒が多くなった。また調べ方・発表の仕方も3つの課題（個人発表用課題・グループ別課題・統合グループ用課題）を通して、進歩してきた。個人課題からグループ課題そして発表用統合課題になり、それぞれ発表するという形が功を奏したといえる。また机の配置をロの字にしたために、相手の顔を確認しながら、質疑応答できることを配慮したことが円滑にコミュニケーションを取り合えた理由の一つだと感じられた。以下は生徒のテーマである。
20名各3分での個人課題発表（漫画文化、華道、舞妓、神道、おもてなし、彫り物、妖怪、心の比較、日本の神々、吉田松陰、祭り、江戸仕草、茶道、木の文化、奈良の建築、風習、浄瑠璃、石庭、マスクの比較）5班各5分でのグループ課題発表（本当の忍者とは、日本昔話～浦島太郎を例にして～、特攻隊と死生観、日本の季節と住居の作り、日本神話に於ける国作り）2班各7分でのグループ統合課題発表（忍者に学ぶ、日本昔話と教訓～浦島太郎を例にして～）

【本講座の課題】講義をし、基礎知識をつけ1年次に学んだ調べ方のスキルをアップする事を意識して行ったが、時間不足のため、課題を消化する事で生徒の多くは終わってしまった。発表会は違うグループとの合同だったため新鮮に感じたのかよく質疑もしていた。個人→班→代表班のサポートの流れの中で、うまく自分の役割と自分の関心興味を合致させるのが課題となろう。



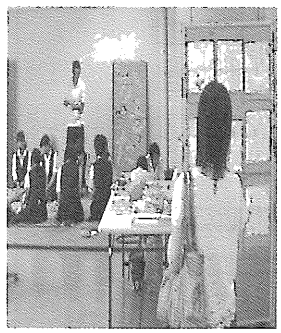
| No.2 | テーマ　「筑坂百人一首」をつくろう！ | |
|---|---|---|
| 使用教室：2BHR | | 担当教諭（教科）：奥村洋子（国語） |

講座の目標：「小倉百人一首」は、藤原定家が宇都宮頼綱からの依頼を受けて、上代からの有力歌人の名歌を選び襖を飾る色紙に書いたことが由来とされる。小倉百人一首の歴史的経緯をふまえ、「国語総合」で学んだ「チョコレート語訳」（俵万智「短歌を訳す」の学習をふまえ「小倉百人一首」を五七五七七の韻律で現代語訳する）を発展させた筑坂オリジナルの「百人一首」色紙を作成し、皆で「筑坂百人一首」によるかるた取りを楽しむ。

| 活動内容 | | | |
|---|---|---|---|
| | 第1回 | 4月11日 | 全体ガイダンス（多目的室） |
| | 第2回 | 5月12日 | アイスブレイク、授業の概要（展開・ルール）説明、「学習活動の記録」確認、「小倉百人一首」の成立について（講義）、担当分担決め（グループ分け） |
| | 第3回 | 5月26日 | 「学習活動の記録」記入・ふりかえり（回覧）、次回提出等確認、「詞書（ことばがき）」から読み取る歌人たちのメッセージ（講義）、「筑坂百人一首」の作製要領説明・作製作業<br>同上 |
| | 第4回 | 6月9日 | 各グループによる中間報告、持参テキスト（参考資料）の確認・共有<br>「学習活動の記録」記入・ふりかえり（回覧） |
| | 第5回 | 6月23日 | グループ内発表会<br>「学習活動の記録」記入・ふりかえり（回覧） |
| | 第6回 | 7月13日 | リハーサル（プレゼンテーション準備）、色紙作成 |
| | 第7回 | 8月3日 | 同上<br>「筑坂百人一首」色紙の投票 |
| | 第8回 | 8月4日 | 「筑坂百人一首」かるた取り（発表会） |

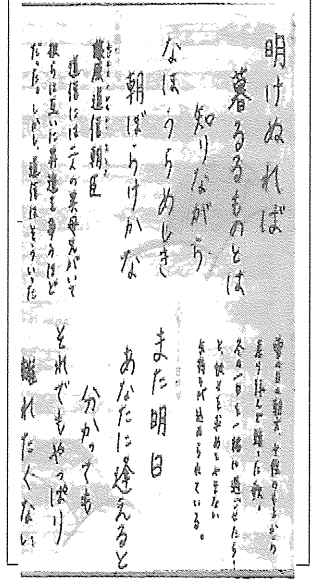
担当者からのメッセージ：古典を愛するあなた、恋愛について深く考えてみたいあなたに受講してもらいたい講座です。お待ちしてます！
準備が必要なものなど：古語辞典と国語便覧、古典を愛する心をお持ち下さい。

【本講座の成果と課題】
「国語総合」での学習を発展させ、参考文献を自分で探し、「詞書（ことばがき）」の情報から歌の成立事情や作者の作歌背景を分析し、現代語訳を試みるという活動をおこなったが、古典に対する苦手意識の強い生徒は活動目標の理解に時間がかかってしまった。



写真：8月4日（教員免許更新講習）の発表会の様子。色紙を展示し、参加者に投票をお願いした（右側）。奥のスペースでは畳を敷き、かるた取りを楽しんだ。生徒は交代で読み手と取り手を務める。読み手は自分が考えた「筑坂百人一首」をもとに、本歌を伝えないで調べた歌を紹介する。取り手は、読み手の紹介

生徒の作品（色紙に本歌と現代語訳、歌の背景や作者紹介、イラストなどを盛り込んだ）



| No.3 | テーマ　高齢者の介護とリハビリテーション | |
|---|---|---|
| 使用教室：福祉実習室 | | 担当教諭（教科）：熊倉悠貴（福祉） |

講座の目標：日本のこれまでの高齢者介護の文化を理解し、これからの高齢者福祉についての考えを深めるとともに、高齢者の介護を豊かにする遊びリテーションを作ることを目標にします。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 活動内容 | 第1回 | 4月11日 | 全体ガイダンス（多目的室） |
| | 第2回 | 5月12日 | アイスブレイク、授業の概要（展開・ルール）説明、「学習活動の記録」確認、介護文化の講義 |
| | 第3回 | 5月26日 | 「学習活動の記録」記入・ふりかえり・確認、遊びリテーションの実際、遊びリテーションの企画 |
| | 第4回 | 6月9日 | 「学習活動の記録」記入・ふりかえり・確認、遊びリテーションをやってみよう、遊びリテーションをやってみよう |
| | 第5回 | 6月23日 | 「学習活動の記録」記入・ふりかえり・確認、成果発表に向けて |
| | 第6回 | 7月13日 | 成果発表に向けてリハーサル意見交換 |
| | 第7回 | 8月3日 | リハーサル |
| | 第8回 | 8月4日 | オリジナルの遊びリテーションを作成したものを発表する。 |

担当者からのメッセージ：介護に興味を持っているひとはもちろん、リハビリに興味を持っているひと、人間が好きなひとにオススメです。

準備が必要なものなど：

【本講座の成果】

遊びリテーションとは「遊び」と「リハビリテーション」を融合させたもので、お年寄りが楽しいと感じ、心と体が動く、その結果リハビリテーションになっている、そうするための設計と進行をパッケージしたものである。

最初の授業で介護のイメージについて聞いたとき、ほとんどの生徒が大変、暗いなどネガティブなイメージを持っていた。しかし、遊びリテーションは障がいのある身体を認めつつも前向きに生活を送っていくためのポジティブな活動である。本講座ではそうした介護のポジティブな面を遊びリテーションを自分たちで考えることで体験的に学習することを目的とした。

遊びリテーションを自分たちで考えるにあたって、今回は身体にマヒがある・目が見えないひとも参加しているという条件のもとで遊びリテーションを作らせた。生徒は各自で身体にマヒがある状態、目が見えない状態ではどのような困難があり、どのような助けが必要かを文献等で調査し、どのようなルールであれば楽しんでできるか創意工夫していた。また、お年寄り役になって実践することで足りない部分や変えなくてはいけない部分などを発見することができていた。

また、普段の座学という学びのスタイルではなく、身体を動かしながら頭を使ったため、介護のイメージについて頭だけの理解ではなくて、腑に落ちる理解になったように思う。

【本講座の課題】

成果発表後に振り返りの時間をもつことができなかった。リハーサルではそれぞれの班の発表を見て意見交換ができたが、成果発表後にもう一度振り返りを行い、反省を踏まえたうえで作り直すことができればもっと学びが深まったように思う。また、実際に高齢者向けには実践できなかったため、時間にゆとりがあればそのような活動も行いたかった。

| No.4 | テーマ　日本を世界へ売り込む！ | |
|---|---|---|
| 使用教室：商業デザイン室 | | 担当教諭（教科）：對崎加奈子（商業） |

「日本らしさ」を売りにすることは、グローバル化した市場において最大の武器になる。しかし、日本人自身がその魅力に気づかず販売機会を逃している商品は数多い。この講座では、マーケティングの手法を用いて商品の魅力を発掘、販促戦略を立案することを通して、「日本らしい」ことの良さを再認識すし、それを効果的に伝える方法を学びます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 活動内容 | 第1回 | 4月11日 | 全体ガイダンス（多目的室） |
| | 第2回 | 5月12日 | 1学期の活動について（多目的室）、アイスブレイク、授業の概要（展開・ルール）説明、「学習活動の記録」確認、事例研究：ヒット商品から学ぶ「日本らしさ」というウリ |
| | 第3回 | 5月26日 | 「学習活動の記録」記入・ふりかえり・確認、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ：この商品が売れる！～実際に商品を分析・販促戦略をたてる～、①商品選択＝校外実習（実際に商品を買いに行く※実費300円以下） |
| | 第4回 | 6月9日 | 「学習活動の記録」記入・ふりかえり・確認、②商品分析＝マーケティングの手法を用いて埋もれた「日本らしさ」を見出す、③販促戦略の立案＝こうしたら売れる！を提案する |
| | 第5回 | 6月23日 | 「学習活動の記録」記入・ふりかえり・確認、④プレゼン準備＝買う気にさせる！プレゼンを考える、⑤発表 |
| | 第6回 | 7月13日 | 「進路ガイダンス」後に実施。午後までかかる予定。<br>リハーサル |
| | 第7回 | 8月3日 | 成果発表 |
| | 第8回 | 8月4日 | |

担当者からのメッセージ：ものの見方を変えてみたい人、ビジネスチャンスを探している人歓迎。

準備が必要なものなど：商品購入代金（300円以下）　プレゼンに必要な文具等

【本講座の成果】

当たり前と思っていたことが、実はとても価値のあることであった。身近な商品を通して「日本」の良さを再発見すると同時に、それを外部に向けて発信できる人になることを目標に内容を組み立てた。近隣の100円ショップで商品選択のフィールドワークを行った際は、普段とは違う視点で店内を回ることで多様なアイディアが溢れていることを改めて実感できたようであった。また、成果発表を商品の魅力を参観者にアピールして、一番買いたいと思った商品に投票してもらう形式にしたところ、参観者とのコミュニケーションを図りながらのプレゼンをした班が多数あった。人の心を動かす伝え方を考え実践できたことは、普段とは違う発表という点で成果があったと考える。

【本講座の課題】

講座の前半にものの見方を変えるワークや、発想の転換が生んだヒット商品の事例研究を行ったが、凝り固まった見方をほぐすことは思った以上に難しいことであった。発表というタイムリミットが迫るにつれ各自がアイディアを出すようにはなったが、普段から意見を積極的に述べる生徒が班にいるかいないかで作業の進み具合に大きな差が生まれてしまった。多様な視点を持つ練習だけでなく、どんな小さなアイディアも口に出す練習も必要であったと感じる。また、校外学習を前に、発見した良さを海外に伝えることを目指していたが、時間の都合最終的に世界へ向けたプレゼンという形にできなかった点は今後の課題である。

| No.5 | テーマ　「日本の食事は世界の常識なのか」 | |
|---|---|---|
| 使用教室：調理実習室・図書室 | | 担当教諭（教科）：後藤巻子（家庭） |

講座の目標：

日本人の食事の仕方は、実は他国の人から見れば驚きの食事かもしれません。日本で当たり前と思って毎日食べている食事や行事の日の食事について、その由来を考えてみたことはありますか。用いる食材、調味料、食べ方の根拠を改めて探ってみましょう。そして日本の食事の仕方を他国の食事と比較しながら他国の食文化を理解しましょう。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 活動内容 | 第1回 | 4月11日 | 全体ガイダンス（多目的室） |
| | 第2回 | 5月12日 | 授業の概要（展開・ルール）説明<br>講義「日本のご飯文化のルーツについて」 |
| | 第3回 | 5月26日 | グループ調査活動<br>日本の食文化行動を解明する |
| | 第4回 | 6月9日 | グループ調査活動<br>日本と外国の食文化行動を比較する |
| | 第5回 | 6月23日 | グループ内ディスカッション<br>食文化行動の違いの理由を調べ上げる　ポスター作成 |
| | 第6回 | 7月13日 | グループ別プレゼンテーション |
| | 第7回 | 8月3日 | 成果発表会前日準備・会場作成 |
| | 第8回 | 8月4日 | 成果発表会 |

担当者からのメッセージ：

食事は生活の一コマです。環境（気候、地理的要因、宗教や侵略の歴史など）が異なれば生活＝食も異なるものです。食におもしろさを発見する意欲ある方を期待します。

準備が必要なものなど：

できれば、興味有る国の特徴を描いた本（紀行本・旅行記など）を１冊持参してくれると嬉しいです。

【本講座の成果】

2年次後半に校外学習でオーストラリアを訪れる彼らにとっては、ごく短期間ではあるが日本以外の食文化に触れる機会となる。その事前学習の一つとして、オーストラリアを皮切りに外国独自の生活様式を充分に理解させ、自国以外の世界の食文化を尊重させることをねらいとした。

そのため、まず視点を外から見た日本とし、日本の食事が当たり前という先入観を捨てさせる工夫として、なぜ「ご飯を食べるのか」「お祝いには赤飯なのか」「箸を横に置くのか」など、日本人の食事のなりたちを探っていくことから始め、それと比較対照させながら他国の食事への理解を深められるよう構成した。

調査は図書館での文献をもとにまとめた班が多かったが、調理実習を行って検証した班もあった。どの班も、外国の食事場面の一つ一つを日本での食事に置き換え、比較して理由を考えさせたことで、仮説をたてながら結論を導き出すという方法で調査研究を進めることができた。

また、発表の仕方も、ポスター、パワーポイント、ペープサート人形劇など、プレゼンテーションの手法が各班で工夫されて多彩な発表会となった。発表代表には「おやつと肥満の関係～アメリカ VS 日本～」と「イギリス料理はなぜ不味いか」の班が選出された。

【本講座の課題】

指導者は、最低限オーストラリアの食文化はしっかり理解させたいと願っていた。興味関心の強さが調査研究のモチベーションに影響すると考え、比較研究する国を自由に選択させた結果、オーストラリアに関心を示すグループは非常に少なく、研究の成果を実際に検証させるという結論に至らせることが不十分となってしまった。

| No.6 | 「栽培植物の起源と伝播」<br>テーマ　～日本固定種を栽培しよう～ | |
|---|---|---|
| 使用教室：環境科学実験室 | | 担当教諭（教科）：安達昌宏（農業） |

講座の目標：日本には作物として、およそ400余りの種類が栽培されている。そのうち約半数以上が食料作物、飼料作物であり、このような豊富な種類の作物をもつ日本であるが日本原産の作物はほとんど数種類しかなく、すべての作物は世界から様々な経路によって伝来して、栽培されるようになった。こうした作物のルーツをたどり世界の分化史や栽培知識を習得することが目標である。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 活動内容 | 第1回 | 4月11日 | 全体ガイダンス（多目的室）<br>授業の概要（展開）説明、「学習活動の記録」確認 |
| | 第2回 | 5月12日 | 作物の成り立ち（講義）①実習「種まき」 |
| | 第3回 | 5月26日 | 日本の農耕の始まり（講義）<br>②実習「種まき後の観察・記録」「学習活動の記録」確認 |
| | 第4回 | 6月9日 | 日本の作物とその伝来（講義）<br>③実習「鉢上げ」「学習活動の記録」確認 |
| | 第5回 | 6月23日 | ④実習「定植」<br>「学習活動の記録」確認 |
| | 第6回 | 7月13日 | 発表会に向けての準備（プレゼンテーション準備）、模造紙作成<br>「学習活動の記録」確認 |
| | 第7回 | 8月3日 | 発表会に向けての準備（プレゼンテーション準備）、模造紙・ＰＰ作成<br>「学習活動の記録」確認 |
| | 第8回 | 8月4日 | 発表会 |

担当者からのメッセージ：

作物や植物に興味のある方、お待ちしています。

準備が必要なものなど：

作業服またはジャージ、軍手、デジタルカメラ、筆記用具

【本講座の成果と課題】

本講座は「栽培植物の起源と伝播」をテーマとしているが、本来のねらいは４回行われた実習を生かし、日本における作物および野菜等の固定種が長い年月をかけて、その土地の風土の中で、永年伝承されてきたことについて考えることである。

この講座を通して、栽培植物の起源と伝播について適切な参考文献を探し、起源地からの伝播経路を理解し、作物のルーツをたどることができた。

【本講座の課題】

日本固定種を栽培することはできたが、今後の活動にどう生かしていくかなど他者との意見交換を話し合うまでに至らなかった。

写真：5月12日（①実習「種まき」）
関東白茎みつ葉を萌いている様子。

写真：（トウモロコシ栽培）
隣り畑で、他の品種を栽培すると
風や虫たちで他の品種と固定種が交配
したところを調査している様子。

| No.7 | テーマ | 身のまわりのことを調査しよう！<br>～統計的手法の基礎～ |
|---|---|---|
| 使用教室：2CHR | | 担当教諭（教科）：小澤真尚（数学） |

講座の目標：
①資料を整理して、わかりやすいグラフをかき、全体の傾向を把握する方法を考える。
②目的に応じて集団の特性を正しく反映する資料の収集方法を考える。
③調査した内容を他者に上手に伝える方法を考える。

| 活動内容 | | | |
|---|---|---|---|
| | 第1回 | 4月11日 | 全体ガイダンス（多目的室） |
| | 第2回 | 5月12日 | 1学期の活動について（多目的室）、アイスブレイク、授業の概要（展開・ルール）説明、「学習活動の記録」確認、講義①「統計データ、データのグラフ化」 |
| | 第3回 | 5月26日 | 「学習活動の記録」記入・ふりかえり・確認、講義②「データの整理、データの変化と関係」、ディスカッション①（何を、どのように調査するか考える。） |
| | 第4回 | 6月9日 | 「学習活動の記録」記入・ふりかえり・確認、講義③「資料の傾向の把握」、ディスカッション②（調査内容について集計・考察する。） |
| | 第5回 | 6月23日 | 「学習活動の記録」記入・ふりかえり・確認、講義④「標本調査」、ディスカッション③（調査内容の表現方法を考える。ポスターを作成する。） |
| | 第6回 | 7月13日 | 発表ポスターの作成 |
| | 第7回 | 8月3日 | リハーサル、発表練習 |
| | 第8回 | 8月4日 | 班ごと（1班5人のグループが4つ）によるポスター発表（成果発表） |

担当者からのメッセージ：「卒業研究」でもアンケート調査やデータ収集をする人は多いと思います。データの見方について一緒に考えましょう！

準備が必要なものなど：筆記用具、電卓

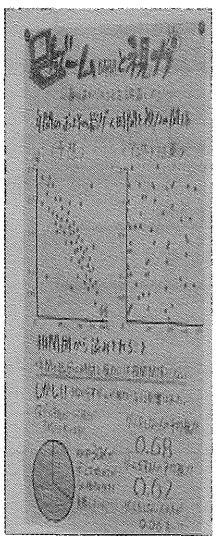
【本講座の成果】

3年次「卒業研究」において，アンケート調査やデータ収集を行う生徒は多い。一方で該当年次の生徒は学習指導要領改訂前のため、「データの分析（数学Ⅰ）」をまだ必修としていない年次である。この生徒たちに分散や標準偏差、相関図まで学習させたことは十分に意義がある。また、アンケート調査の方法についても指導できたことが成果として挙げられる。

【本講座の課題】

時間の都合から数学的な理論の理解に重点をおくことになり、収集したデータの分析には電卓を使用して計算をさせた。時間があれば、PC で表計算ソフトを使用した実践演習まで発展させたかった。同時に、授業案を担当者が一人で作成したため、他教科との横断的な内容が薄く、「数学」色が濃い内容となってしまった。今後はコンピュータ・教育機器の活用により「情報」との連携を行ったり、他教科から提供された実データを用いたりすることも考えられる。

（優秀班の発表ポスター）



| No.8 | テーマ | 「身を守るということを考える。」<br>～伝統武術と護身の理解～ |
|---|---|---|
| 使用教室：　計測制御室 | | 担当教諭（教科）：　北原立朗（工業） |

講座の目標：
様々な事件や災害が後を絶たない昨今、自らの生活と命を守るためのスキルと心構えを学ぶ。通り魔や不審者、暴走する車、電車内のトラブル、不当な暴力やいじめ、さらには自然災害や戦争。突然降りかかる危機に対し正しい知識で向き合うことで自らの生活を律し、人生を豊かにする術を身につける。

| 活動内容 | | | |
|---|---|---|---|
| | 第1回 | 4月11日 | 全体ガイダンス（多目的室） |
| | 第2回 | 5月12日 | イントロダクション<br>「護身についての基礎知識」 |
| | 第3回 | 5月26日 | 実習①<br>「通り魔事件について考える」 |
| | 第4回 | 6月9日 | 実習②<br>「痴漢被害と対応の実際」 |
| | 第5回 | 6月23日 | 実習③<br>「護身力検定と護身の心理学」 |
| | 第6回 | 7月13日 | 実習④<br>「武術の本質とは」&「発表会に向けての準備」 |
| | 第7回 | 8月3日 | 発表会前日準備 |
| | 第8回 | 8月4日 | 発表会 |

担当者からのメッセージ：
真の護身術を教えます。やる気のある人が受講してください。

準備が必要なものなど：
動きやすい服装（ジャージなど）、筆記用具

【本講座の成果】

本講座の主たる狙いは、生徒自身が「命」について考えることである。平和な時代には実感が沸かないが、生きるということは自分の命を守ることである。その原点に立ち返らなければ、全ての学びは空であると考えている。

生徒たちのアンケートや講座後の感想から、上記について深く考え、感じていたことが読み取れた。これまで武道へのイメージが変わり、心構えや精神性など日頃の生き方や考え方の重要性を理解し、日常生活に活かそうとする姿勢が伺えた。同時に武道という日本の伝統文化への理解が深まり、オーストラリア校外学習の事前学習という意味でも効果が見られた。

また、基本的な授業の進め方として課題解決に向けたディスカッション形式を取り入れたことにより、それぞれが活発な意見を出し合い、コミュニケーションを通して考えを深められたことも大きな成果であった。

発表会では班ごとにテーマを決めて発表したが、どの班も学習したことを活かし、趣向を凝らした発表を行うことができた。

【本講座の課題】

時間的な制約もあり、内容的には限定された範囲での話となった。また発表においては単純に学んだこと、調べたことだけでなく、自分たちの考えや行動など、オリジナリティーのある内容になるとさらによかったと思う。今後の指導の課題にしたい。

## 9．２学期の活動報告と評価

（1）講演について（生徒のレポートより）

総合的な学習の時間「キャリア教育講演レポート」

2012.10.06

2年　組　番　氏名

講師：馬場 啓介 先生(NPO法人 BB−TRUST代表、国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチ)

テーマ：やりたい仕事に就くために高校生のうちにしておきたい3つのこと

記録欄(メモ)

目的のためにスケジュール管理を身につける。・最低限度の知識(国・数・英)はもとも。・何でも楽しむ力をつけること。

コーチ：スポーツ以外につける(経営者に)ことが流行している。

上：脳の3%しかつかえない。

人→1日のうち70%しか意識した行動をしない。

人間は同じことを考えているから同じところしか使えていない。

→コーチがいることで必要な物を思い出してもらう。(例1)

コーチがいるといないとでは解決の早さが5倍くらい違う!!

価値観を意識化しよう。(例)将来の職業、どんな人?

エネルギーは平等! 自分語の中に

枠をとっぱらうと。

まとめ、自分の可能性を決めこまない!

できない物事の限界はない。やれる理由はいくらでもある。→やれる理由を探し続けると何人でもできる!

~~やれない~~ たくさん失敗をしとけ!(自分とのコミュニケーション能力。

Q1 自分の対話をしなければ。

Q2 失敗から何を学んだかという問い。

「どれだけ多くの失敗し続けが、がんばれるか、失敗した時に学び続けるかが大切だけなるか、選択も大事!)

講師への質問

先生の失敗は? Aたくさん。でも失敗した時笑った。

なろうと思ってなった? A 言葉でかやげるとにに。でも偶然の重なり。

もし、何でも感じれるぐらい制限された時、どうしたら復活できる? そういうんと関わらないか、雰囲気のせいにする。打たれ弱いままでいい!

全体を通して(考えたこと・学んだこと・感想)

最初、コーチってなんだろう?と考えて、不思議に思っていたのですが聞いていくとすごくためになる話で、今まさに知りたいことだらけでした。自分の可能性を決めこんで、「できない」と決めつけたから今までやってきた固定概念が一気にとけられた気がしました。

失敗を恐れて逃げるようにやってきたのですが、たくさん失敗をしとけとのことだったので、これからは出来る限り思いで、若さも活かして(!)あらゆることにチャレンジできたらと思います。私もいろんなことで制限されて折れるので、今日質問したみたいに強くなろうと根理せず、自分のペースでどんどんチャレンジできたらいいと思います。

講演の内容に関する共感度　♥♥♥♥♥

自己評価(質問ができたか、発表を聞けたか、自分の学びになったか)

5段階評価で○を付けて下さい。　(5)　4　3　2　1

総合的な学習の時間「オーストラリア文化講演」

2012.10.27

2年　組　番　氏名

講師：雨宮 秀行 先生(オーストラリア政府観光局シニアマーケティング エグゼクティブ)

テーマ：オーストラリアセミナー

記録欄(メモ)　コツシス 見ると幸せになる☆　カスタリ 必注意　school.～ →学校宿泊のサイト

オーストラリア
9,000万平方キロ
首都→キャンベラ
人口→22,000万人
公用語→英語

色々な都市
シドニー→経済の中心、ロックス、人口4万6千人
エアーズロック→らくらく(歩き3km、所要1時間)

カナンズでは
世界最古の熱帯雨林
↳アマゾンより
昔からある!!
入国の際には注意が必要です!

Q. コアラは時速何kmで走れるでしょう?
A. 90km (必ず覚えてとたたいスピードで走る)

くっつきがついているように、外国では印かんではなくサイン

世界遺産(15個)
・グレートバリアリーフなど
↳南北に2300km
大きくしらべる

カナンズ
クイーンズランド州 16万人
12月の最高気温 32度
最低気温 24度

必パスポートの管理
↳
なくした場合はオーストラリアで自分を証明するものがなくなり帰れなくなってしまう。

日本から輸入したものが良いもの
乾電池、文具、コンタクトレンズなど
↳コンセントの形が違うので注意!!

講師への質問

Q. 日本で当たり前だけどオーストラリアは? A. 赤信号でもかれた道いいの日本ではない

スリなどはとられても仕方ない

全体を通して(考えたこと・学んだこと・感想)

外国に行くことに特に不安をなく、注意しなければいけないことなど考えていませんでした。楽しむことも大事だけれど、必ず注意しなければならないことを理解したいです。1番びっくりしたのがコアラはとても神経質だから気をつけなければいけないということです。

パスポートをなくした時の大変さも知ったのでしっかりときちんと管理をしたいです。

日本がとても安全で平和な国ということが分かりました

講演の内容に関する共感度　♥♥♥♡♡

自己評価(質問ができたか、発表を聞けたか、自分の学びになったか)

5段階評価で○を付けて下さい。　5　4　(3)　2　1

2年生校外学習事前学習

テーマ「オーストラリアの生態を知ろう！！」

2012.11.10

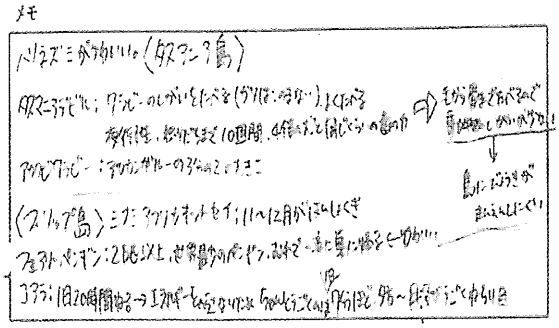
校外学習委員会・学習係

2年　組　番　氏名

目的

・オーストラリアに棲む動物の生態に興味を持ち、関心を深める。

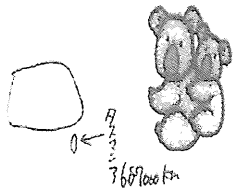
メモ



下の問題はビデオを参考にしながら答えましょう。

Q1、次の動物のうち有袋類に丸をつけましょう

タスマニアデビル　・　カンガルー　・　ハリモグラ



Q2、コアラは一般的に水を飲まない。それはなぜか？

Q3、ビデオに出てきたワニは1平方センチメートルあたり何キロ噛む力があるか。

100kg　・　200kg　・　300kg以上

Q4、次のかっこ内に入る数字または語句を答えましょう。

・グレートバリアリーフには約（4000）種のサンゴと約（2000）種の魚が生息している。

・サンゴは動物で、（ポリプ）の仲間である。

Q5、次の4種の動物を尾の長い順に並べ替えましょう。

クロカンガルー　ウォンバット　タスマニアデビル　ディンゴ

［クロカンガルー　＞　ディンゴ　＞　タスマニアデビル　＞　ウォンバット］

（2）校外学習委員会の活動

（ア）校外学習委員会構成

各クラスより5～6名

委員長1名・副委員長3名（各係長）

しおり係9名・学校交流係9名・学習係4名

（イ）各係の活動日程表

| しおり係 | 学校交流係 | 学習係 |
|---|---|---|
| 第一回校外学習委員会・係決め（6/12） | | |
| 第二回校外学習委員会・オプション予備調査入力 | | |
| 今後の流れの説明（10/10） | セレモニー・アクティビティの検討（10/15） | 事前学習の打ち合わせ（10/15）自己紹介、方法・内容の検討 |
| 部屋割り・バス座席・バディ決め（10/11） | セレモニー企画〆切り（10/19） | 事前学習の打ち合わせ（10/16）授業展開の確認 |
| 原稿作成（10/19～11/7） | セレモニー企画審査（10/22） | 事前学習の打ち合わせ（10/23） |
| 原稿提出〆切り（11/8） | アクティビティのグループ決め・内容の検討の進行（10/25） | 事前学習の打ち合わせ（10/25）候補VTRのピックアップ |
| 校正・ページ割り（11/9） | アクティビティのリハの準備（11/9） | 事前学習VTR視聴（10/26）紹介ppt、ワークシート作成 |
| しおり製本（11/10） | アクティビティのリハの進行（11/10） | 事前学習の進行（11/10）動物番組の視聴、OPツアー紹介 |
| しおり読み合わせ（11/17） | 交流会リハ（12/1） | |

（写真：しおり係の製本作業）

（ウ）校外学習日程

## 平成24年度 筑波大学附属坂戸高等学校 校外学習日程表

| 月日 | 都市 | 時刻 | 予定 | 食事 | 朝食メニュー |
|---|---|---|---|---|---|
| 12/4(火) | 第二ターミナル | 17:15 | 成田空港第二ターミナル集合 | | |
| | 成田空港 | 21:15 | 出国手続き後、ジェットスター航空にて空路ケアンズへ | | |
| | | | 所要時間7時間40分(時差＋1時間) | 夕:機内 | |
| | | | 〈機中泊〉 | 2回 | |
| 12/5(水) | ケアンズ | 5:55 | 入国手続き後、ジャブカイへ | | |
| | | | ジャブカイ内レストランにて朝食 | 朝:O | |
| | | | ◆選択別終日研修①(オプショナルツアー) | 昼:OP | |
| | | | 昼食[ ] | | |
| | | | ☆スーパーで買い物 | 夕:O | |
| | | | 夕食はホテル内レストラン[洋食ビュッフェ] | | |
| | | | 〈レイクスリゾートホテル泊〉 | | |
| 12/6(木) | ケアンズ | | ◆選択別終日研修②(オプショナルツアー) | 朝:各自 | |
| | | | 昼食[ ] | | |
| | | | | 昼:OP | |
| | | | 夕食は市内レストラン[中華料理] | | |
| | | | 専用車にてホテルへ | 夕:O | |
| | | | 〈レイクスリゾートホテル泊〉 | | |
| 12/7(金) | ケアンズ | | ◆現地学校との交流会 | | |
| | | | 交流校名:Atherton State High School | 朝:各自 | |
| | | | 現地校を訪問し、同世代の若者との交流会 | | |
| | | | 昼食[アサートン高校が用意] | 昼:学校 | |
| | | | ケアンズ市内、班別研修 | | |
| | | | | 夕:O | |
| | | | 夕食はジャブカイ[洋食ビュッフェ] | | |
| | | | 専用車にてホテルへ | | |
| | | | 〈レイクスリゾートホテル泊〉 | | |
| 12/8(土) | ケアンズ | 9:00 | ケアンズ空港へ | 朝:各自 | |
| | | 13:20 | 出国手続き後、ジェットスター航空にて空路成田へ | 昼:機内 | |
| | | | 所要時間7時間50分(時差＋1時間) | | |
| | 成田空港 | 20:00 | 到着後、入国手続き | 夕:機内 | |
| | 第二ターミナル | | 入国後、解散 | | |

（エ）校外学習委員のふりかえり

（12月20日記録、カッコ内は係名）

①困難を感じたこと

・交通機関のページを作る上で資料集めにすごく苦労しました。調べれば調べるほどいろいろ出てきてしまって何を載せたらいいかわからず難しかったです。（しおり）　・人前で発表するときは噛んでしまう（しおり）　指示がうまく通らなかったこと（交流会）　・アンケートを打ち込むこと（交流会）

・クラスでの部屋決めやバディ決めを仕切ったこと。人前に立つことが無かったので、難しかったです（学習）

②成果や充実感を感じたこと

・しおりが完成したとき（しおり）　・みんながしおりをみながら行動してくれたのが嬉しかったです（しおり）　・実際に企画したもので向こうの人が喜んでくれたこと（交流会）　・なんだかんだでみんなが交流会の練習に参加してくれたこと（交流会）　・自分は、160人の前で発表するのは初めてで、とても最初は緊張してしまいました。けど、みんなとやっていく内にやる気をもらい失敗することなくできました。（学習）　・みんなが真剣に、係で企画した発表を聞いてくれたり、協力してくれた時、充実感を味わいました（学習）

③委員会活動を通して学んだこと、今後に活かせること

・期限を守ることの大切さ、クラスのメンバーをまとめて決めごとをするときのリーダーシップ（しおり）　・エクセルの使い方が少し上達しました。（しおり）　・しおり作りで個人の担当の場所やページなど色々と分担したり、計画を立てたりしたこと。これは社会にでて使えそう。（しおり）　・自分の意見をしっかり主張すること（交流会）　・いろいろな人と協力して何か1つのことを決めること（交流会）　・責任をもって行動すること（交流会）　・発表する時は事前準備をしっかりするということ（学習）

・臨機応変の対応力（委員長）

④今後の課題

・パソコンのタイピングとか、誰もがみやすいような word の作り方（しおり）　・もっと取捨選択

をきっちりし、比較的必要なことをしっかりまとめられるようにする（しおり）　・もう少し他人を思いやる行動をしたいと思った（交流会）　・人の意見を聞きキチンとまとめる（交流会）　・もっとわかりやすく説明できるようにしたい（交流会）　・集合が遅いこと（交流会）　・もっと余裕をもって行動すること（学習）

（3）校外学習に関する評価アンケートより
（12月20日実施）

（ア）交流会について

・楽しかった！でもいいたいことが伝わらないことが多くあり、もっとコミュニケーションをとりたかった。
・思っていたのと全然違った
・すごく楽しい交流会になった！
・ジャパニーズアクティビティで「だるまさんころんだ」をやった時はすごくおもしろかった
・英語をききとるのが難しかったです
・あまり相手側と意思疎通をはかれなかったのが残念
・英語があまりしゃべれなかったので勉強していこうと思う
・（交流相手の）年が離れていたのが残念
・生の英語をきけとても勉強になりました！！
・現地の人たちは陽気で話しかけやすかった！！
・英語が通じたときの喜びを味わうことができた。英語をまなばないと、という焦りを感じた。

（イ）学習全体を通して（目的の達成度）

（目標1）他国の人と英語を用いてコミュニケーションすることを通して、日本とは異なる文化への理解を深め、互いを尊重しあう態度を養う

（目標2）豊かな自然に触れ、環境問題に対する意識・関心の向上を図り、自ら問題解決に取り組む姿勢を養う

（目標3）自分の関心ある分野に関して、グローバルな視野を養う

・英語をもっと活用できるようにしたいと思った
・アボリジニの踊りがすごかったです
・この大変きれいな海をなくしたくない！！地球温暖化を少しでもおさえたいと思うようになった
・思っていたほど英語などに理解を深めることが出来なかった
・あまり行く前からの変化はないように思う
・学校の英語の勉強はそれなりに役立つと思った
・楽しかった、という感想だけでなく、考え方の理解や日本と海外の文化などたくさん学べたと思った
・もっと異国の人とコミュニケーションをとりたいと思えた
・交流会についてはもう少し計画を立てるべきだと思った
・外国に行って日本のよさが分かった。日本のことも外国のことも理解を深めたいと思った
・英語のリスニングと質問と応答をもっと勉強するべきだった（文法）
・今までより自分の視野がすごく広がったと思うのでよかった
・日本とは違う生態系・環境をみられてよかった
・オーストラリアが自然が豊かなのは分かったけど、なぜこんなに豊かなのか、など全体で学習できる時間があっても良かったと思う
・国際交流の大切さを知った
・英語に少し自信がもてた
・ただの旅行にならず、学習できてよかった
・自分は海外の事よりもまず自国のことから知るべきだ
・もっと向こうにいたかった。4日じゃたりない
・びっくりするくらい日本語しか使わなかった
・価値観の違いにとまどったが視野を広げるいい機会だったと思う
・たくさんの人に話しかけることができて、私的に目的は達成できたと思う！
・グリーン島で汚物を流さないということを知りました
・衛生面、治安、職などを通し、日本のすばらしさに気づかされた

（4）校外学習のまとめ

今年度の校外学習は、5日間の日程（平成24年12月4日～8日）でオーストラリアのクイーンズランド州ケアンズを訪れた。ケアンズは日本から一番近い北の玄関口であると同時に、世界最古の熱帯雨林とグレートバリアリーフという2つの世界遺産を有する魅力的な都市である。アボリジニの文化を色濃く残す地域もあることから、校外学習の目的である異文化体験、環境問題に対す

る意識関心の向上には最適な場所であり、生徒は各自が選択したオプショナルツアーを通して理解を深めることができたと考える。そうした個人ごとの体験に加え、今回の校外学習ではアサートン高校との学校交流会を実施した。英語を用いて直接コミュニケーションを図ることでより深く異文化を理解し、またそのやりとりの中から自分自身や日本についても新たな発見を得て、互いを尊重しあう視点を持てるようになることが狙いである。このような学校同士が独自のプログラムに従って交流をはかる体験は、個人旅行ではできない。また、一度に大勢の同年代の外国人と体験を共有することも、学校行事だからこそできる体験である。今回の校外学習では、このプログラムを軸に内容を組み立てた。

また、もう一つの大きな軸は総合係を中心とした生徒による事前活動である。各クラス６名（１クラスのみ５名）計23名の総合係が、委員長１名を筆頭にしおり係・学習係・交流会係の３つの役割を分担、校外学習全般に渡って陰になり日向になり活躍をした。自ら主体的に参加する姿勢を養うには、準備段階から責任を持たせ生徒主導の活動を取り入れることが必要である。また、そうして生徒が前に立ち率先して校外学習に関わる姿を見ることで、係でない生徒もまた主体的な意識を持つことができるようになると考える。

しおり係９名は、校外学習中つねに携帯するしおりに必要な情報は何かを話しあうことから始め、項目選びから執筆、校正、製本に至るまで全てを行った。仕上がったしおりは総ページ数が60ページにもなったことから、製本する頃には悲鳴が聞こえてきたが、その後しおりが活用され、それを頼りに皆が動く様子に大きな達成感を得たようである。

学習係はもっとも人数の少ない４名で構成された係だが、事前学習として教員が用意した講話以外に必要なことは何かを検討、独自の視点でオーストラリアを紹介する授業を組み立て、全生徒へ向けて一斉講義（動物番組の視聴とワークシート作成、パワーポイントファイルを用いたオプショナルツアーの紹介）を行った。まとまった時間大勢の前で話をすることの難しさもあっただろうが、飽きさせない構成で教員が必要と思う知識や情報では足りない部分を生徒自ら補う役割を果たし、事前学習の充実に貢献した。

交流会係は９名で構成され、全員が男子ということもあり和気あいあいと活動していた。普段の学校生活では生徒の前に立ち、話し合いを進めたり指示をしたりすることは不慣れな生徒が多かったが、交流会の成功は自分たちの手にかかっていることに責任を感じ、積極的に活動できていた。交流会当日は表に出ることはなかったが、縁の下の力持ちとして責任を持ち行動することができたようである。

準備の日々を振り返ると５日間は何と短いものかと感じるが、その５日間を思い起こすと密度の濃さに驚かされる。それは準備にかけた全てが５日間に凝縮されていることの証なのだろうと思うと共に、生徒にはその準備を超えた何かを校外学習から得ていて欲しいと考える。今回、校外学習中にフォトエッセイ（川柳）という課題を出した。自分の中で最も印象に残ったものを写真と川柳（もしくは詩）で紹介するというものである。同じ場所で同じ時間を過ごしていた生徒がとらえた一瞬はそれぞれ異なり、そこに校外学習で生徒が得たもう一つの意義が現れていると考える。

赤レンガ　異国の道で　ハイチーズ！
影が伸びてく　ケアンズの町

（写真・川柳とも生徒）

## １０．総合学科研究大会での公開授業

（１）内容

本校主催の総合学科研究大会で２年次の総合的な学習の時間に関する公開授業を実施。場所は多目的室（座席170　丸椅子50設置）舞台・照明を簡易設営し、下記の流れで実施。廊下通路窓には校外学習の振り返り出作成したフォト川柳160人分とオーストラリア校外学習の写真を展示。

① １学期の学習（代表１講座の発表）・・・15分
② 校外学習報告（校外学習委員会）
フォト川柳優秀者表彰・・・20分
③ プレ卒業研究・・・10分
④ 質疑応答　5分　　（計50分）

2/21(木)研究大会用　ストーリーボード（プロジェクトワーク編　15分）

| 時間 | 発表者 | 発　表　内　容 | 提示資料 | 機器操作 |
|---|---|---|---|---|
| 0分 | 冨田<br>複数人 | 総合的な学習の時間発表<br>・BGM<br>・司会「これより総合的な学習～」<br>・寸劇（前編） | PP | PC<br>（大島）<br><br>照明 |
| 1分 | 小山田 | | | |
| 2分 | 陣内 | 【授業内容と進め方について】 | PP | PC |
| 3分 | 伊藤 | 授業実践その１ | PP | |
| 4分 | 伊澤・岩切 | 授業実践その２ | PP | |
| 5分 | 杉野・山中・築瀬・大山 | 【各班の発表】<br>「桶川ストーカー事件」について | PP・模造紙 | |
| 6分 | 土屋・戸田・矢嶋・高達 | 「被災地で身を守るために」について | PP・模造紙 | |
| 7分 | 小山田・陣内・冨田 | 「名古屋連続通り魔殺傷事件」についてのレポート | PP・模造紙 | |
| 8分 | 保坂・中川・大島 | 「川越暴行事件」についてのレポート | PP・模造紙 | |
| 9分 | 小林 | 「すき家強盗事件について」についてのレポート | PP・模造紙 | |
| 10 | 渋谷 | 授業を通して学んだこと① | PP | |
| 11 | 矢嶋 | 授業を通して学んだこと② | PP | |
| 12 | 高達 | 授業を通して学んだこと③ | PP | |
| 13 | 複数 | 授業を通して学んだこと④ | PP | |
| 14 | 全員 | 寸劇（後編） | PP | |
| 15 | | 挨拶・終了！ | | |

2/21(木)研究大会用　ストーリーボード(校外学習編　20分)

| 時間 | 発表者 | 発　表　内　容 | 提示資料 | 機器操作 |
|---|---|---|---|---|
| 0分 | | 校外学習委員の発表 | PP：① | PC<br>（大島） |
| 1分<br>2分 | 松澤 | 委員長の言葉（兼司会）<br>・校外学習概要<br>・校外学習委員組織の説明 | ①<br>②③<br>④⑤<br>⑥写真のみ | |
| 3分 | 戸田 | 総合係の仕事の説明<br>☆しおり係<br>・仕事内容紹介<br>・みどころ紹介<br>・感想 | ⑦<br>⑧⑨<br>⑩⑪<br>⑫ | |
| 5分 | 中野 | ☆学習係<br>・仕事内容紹介<br>・事前学習会<br>・課題集め<br>・まとめ | ⑬<br>⑭<br>⑮⑯⑰⑱<br>⑲<br>⑳ | |
| 7分 | 戸口 | ☆交流会係<br>・アサートン高校紹介<br>・スケジュール紹介<br>・事前準備について<br>・当日の様子<br>・感想 | Ⅱ<br>Ⅱ | |
| 11分 | 松澤 | ＯＰ体験報告者紹介 | | |
| 12分 | 若松 | ファームステイ体験報告 | PP<br>写真のみ | |
| 13分 | 岩澤 | 市内自由散策体験報告 | PP<br>写真のみ | |
| 14分 | 松澤 | 終わりの挨拶 | | |
| 15分 | 竹内<br>對崎 | 川柳の入選者発表（16名）<br>・該当者は前に並び、作品を見せる<br>A：内田・高島・中川・増井<br>B：大岩・田嶋・橋本・山田<br>C：遠藤・髙瀬・徳田・新井<br>D：八尋・田中・長谷部・向井<br>・作品読み上げ（對崎）<br>・入選者に景品贈呈（竹内）<br>・投票方法説明（對崎） | PP<br>読み上げる際に作品表示 | |
| 20分 | | 終了 | | |

2/21(木)研究大会用　ストーリーボード（卒研支援編　10分）

| 時間 | 発表者 | 発　表　内　容 | 提示資料 | 機器操作 |
|---|---|---|---|---|
| 10分 | 高山 | 「国際的視野に立った卒業研究支援プログラム」成果発表<br>～日・独の英語教育について～ | pptスライド（24枚程度） | PC補助<br>2A大島 |

## 11．卒業研究構想発表会

（1）目的

3年次の「卒業研究」の導入として卒業研究構想発表会を実施。目的は①進捗状況の確認②テーマの絞り込み③春休みの課題を自分で考える④計画を立てる⑤進路実現とともに考える⑥発表内容によって担当教員が決まる事と発表要旨、発表用パワーポイント（スライドは4枚以上で、・研究の動機　・研究目的・研究方法・研究計画・参考文献を記す）を作成することとした。

（2）発表の仕方

科目群毎2会場で一人3分発表3分質疑で実施。担当者は次年度卒業研究担当者にお願いした。生徒には発表を聞いてコメント用紙にコメント・質問事項を記入させた。この段階でテーマがしっかりと決まっている生徒はまだ少ないが、構想発表会を通してテーマを絞り、半年間の研究計画を考えさせるきっかけとしては時期としても内容としても有効な発表会である。

## 12．成果と課題

（1）成果

目標である「協同的に取り組む態度を育てる」についての成果を中心に記してみたい。

1学期のプロジェクトワークは各講座の取り組み内容が違うので、週1度の担当者の情報共有会で活動は報告されたが、各講座の中で共同作業や協同的に調べ学習をしていたという事例が多数あった。また成果発表会（免許状更新講習時）は各講座から2～3の代表グループが発表という形態だったため、選ばれなかったグループは代表グループのサポートにまわるという役回りであった。しかし、生徒の自分の講座の代表グループを支援するというモチベーションは高く、選ばれなかったというネガティブな関わり方でなしに、多数が支援をポジティブに捉え、プレゼンへの有効なアドバイスや発表用小道具の作製、発表会場のレイアウトなどを積極的に行う場面が多く見られた。

2学期の海外校外学習を中心とした活動においては、生徒の委員会を核に計画・学習・準備をおこなった（詳しくは前章を参照）。このことにより、仲間の生徒が「学年集会でオーストラリアについて発表している」「遅くまで残って栞の原稿を作っている」という活動が、校外学習への意欲に波及し、相手校との「交流会の時は、みんなで盛り上げよう」等、自分たちの関われるところから協力しようという雰囲気が学年全体に広がることに繋がったことは、大きな成果である。例えば交流会時の本校からの出し物としてダンスの発表があったが、それを盛り上げようと他の生徒達が応援団を組み応援の練習し、当日には交流先の生徒達を巻き込むほどのたいそうな盛り上がりとなり、「こんなにエキサイトしたのは初めて！」と交流先の生徒教員達に好印象を与えたことなどである。以上のように、「協同的に取り組む態度を育てる」という目標に対する成果は十分あがったといえる。

このような成果は、生徒達の意欲に裏打ちされているものであるが、それを仕掛けるのは我々教員である。本年度の「総合学習の時間」の目標を吟味し、達成させるために指導案を練り実施した。そして毎回の授業後（年次会などで）他の担当者と情報共有し、互いに成功した事例、失敗した事例を忌憚無く話すという教員間の関係が肝要であった。「協同的に取り組む」という総合学習の目標はそのまま「総合的な学習の時間」担当教員の目標ともなる。生徒同様我々教員の目標も十分達成できたと言える。有り難いことに、本校の学年団は非常に上手く機能している。これは、自分の担当する生徒・クラスという意識ではなく、学年の生徒全てを担当し、学校の生徒全員を担当、指導しているという意識が総合学科高校に強いためと思われる。この基盤は1年次の必履修科目である「産業社会と人間」「キャリアデザイン」そして2年次の「総合的な学習の時間」、3年次の「卒業研究」を担当することにより培われているといってよいであろう。それらにはそれぞれ専門の教科担当者がいるわけではなく、横断的な科目であり「協同的に取り組む」事をしなければならない科目である。それゆえ互いの成果・課題を謙虚に共有しながら蓄積し、同じ方向を見定めて、それぞれの知恵と経験を出し合い授業に取り組むという姿勢が教員間の信頼に満ちた関係を作り出している大きな理由となっている。また昨年度、本学年を中心に開発した科目「キャリアデザイン」を立ち上げるために、試行

錯誤し検証をした成果が、本年度の「総合的な学習の時間」の展開に有為に働いていることは言うまでもない。

（2）課題

「はじめに」に記したように、２年次の「総合的な学習の時間」が１年次「産業社会と人間」「キャリアデザイン」、３年次の「卒業研究」を繋ぐものとして、リニューアルされたのは昨年度からである。課題としては、１年次で身につけた「ベース」をどこまでスキルアップできたかという点や昨年度１学期２学期を使って実施されたプロジェクトワークを今年度は１学期のみで実施した点、海外校外学習の事前事後学習と国際教育・キャリア教育との関連をどのようにはかっていくか、以前本校で開発した科目「産業理解」「起業基礎」のマインドの継承はどうなっているか、プレ卒業研究などを如何に展開し、効果的に総合学科での学びの集大成として３年次「卒業研究」に繋げていくか等、多く存在する。試みと課題を検証しながら来年度、再来年度の「総合的な学習の時間」をより有効にするためには、まずは教員の自己研鑽と「協働」する心構えと実践が大切であろう。ちなみに２年次の入学当初からの学年の合言葉は「みんな仲良く♪自分を変えて、世界を変えて♪和気あいあい」である。和気藹々と「自分を変えて」いくのは実は我々教員からであろう。

【参考・引用文献】


- 内外教育編集部（編）（2011）『筑波大附属の実践』時事通信社
- 筑波大学附属坂戸高等学校（編）（2012）『新時代の総合学科』学事出版
- 筑波大学附属坂戸高等学校（2012）研究紀要第49集「平成23年度「産業社会と人間」実践報告」・「平成23年度「キャリアデザイン」実践報告」・「2年次総合的な学習の時間「プロジェクトワーク」活動報告」
- 筑波大学附属坂戸高等学校（2011）研究紀要第48集「「産業社会と人間」・「産業理解」実践報告」
- 服部次郎（編）（2004）『産業社会と人間実践の手引き』学事出版
- 文部科学省（2009）「高等学校学習指導要領総則編」
- 中教審（2011）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）
- 中教審（1993）「高等学校教育の改革の推進について（第四次報告）－総合学科について－」

【資料１】筑波大学附属学校教育局プロジェクト研究４の調査結果
・坂戸高校における１回目調査と２回目調査の差異

第2回研究会　資料　坂戸高校における1回目調査と2回目調査の差異

| | | 1.異文化理解・自国文化理解（1回目：α =.85／2回目：α =.84） | 1回目の平均±SD | | 2回目の平均±SD |
|---|---|---|---|---|---|
| R | 1 | 外国人とはあまり話したくない | 3.19 ± 1.26 | < | 3.56 ± 1.32 |
| | 2 | いろいろな国の人たちと知り合いになるのは楽しい | 3.68 ± 1.20 | | 3.74 ± 1.29 |
| | 3 | 多くの外国人と友達になりたいと思う | 3.68 ± 1.19 | | 3.59 ± 1.31 |
| R | 4 | 出身国によって待遇に差があってもやむをえないと思う | 3.23 ± 1.36 | | 3.43 ± 1.44 |
| R | 5 | 貧しい国の人ならば、意見が軽視されることがあってもやむをえない | 3.96 ± 1.07 | | 4.03 ± 1.24 |
| | 6 | ある民族がほかの民族よりも劣っていると絶対に考えてはいけないと思う | 3.64 ± 1.16 | | 3.72 ± 1.31 |
| | 7 | 外国で起きたいくつかの歴史的事件について詳しく説明できる | 2.11 ± 1.03 | | 2.26 ± 1.08 |
| R | 8 | 世界の三大宗教の特色を説明できない | 2.78 ± 1.18 | | 2.96 ± 1.14 |
| | 9 | 外国で信仰されている宗教をいくつか挙げることができる | 3.71 ± .94 | | 3.85 ± .89 |
| ● | 10 | 日本の伝統的習慣を説明できる | 3.32 ± 1.01 | < | 3.55 ± .89 |
| ● | 11 | 日本はすばらしい国だと思う | 4.20 ± .92 | | 4.31 ± 1.01 |
| ● | 12 | 日本人であることを誇りに思う | 4.03 ± .99 | | 4.09 ± 1.03 |
| | 13 | 海外に行ったら、地元の人の習慣に触れたいと思う | 3.81 ± .99 | | 3.92 ± .97 |
| R | 14 | 外国の伝統文化を紹介するような番組は見ないほうである | 3.26 ± 1.09 | | 3.34 ± 1.11 |
| | 15 | 世界にどのような宗教があるか知りたい | 2.87 ± 1.12 | | 2.94 ± 1.21 |
| ● | 16 | 日本独自の文化や歴史をもっと知りたい | 3.34 ± 1.13 | < | 3.53 ± 1.08 |
| ● | 17 | 日本の独特な習慣を大事にしたい | 3.67 ± 1.02 | < | 3.96 ± 1.00 |
| R | 18 | 国の文化を理解したいとは思わない | 3.81 ± .88 | | 3.88 ± .92 |
| | 19 | 異なる文化に触れることは、興味深い体験だと思う | 4.12 ± .98 | < | 4.27 ± .81 |
| | 20 | 各国に見られる独自の習慣を尊重したい | 4.05 ± .85 | | 4.19 ± .77 |
| | | Ⅰの合計得点 | 70.81 ± 10.76 | < | 73.92 ± 10.48 |

| | | Ⅱ.コミュニケーション能力／外国語の能力（1回目α =.76／2回目α =.74） | 1回目の平均±SD | | 2回目の平均±SD |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 英語などの外国語で書かれた新聞や雑誌が読める | 1.80 ± 1.01 | | 1.83 ± .93 |
| | 2 | 自分の言いたいことを英語などの外国語で表現できる | 2.03 ± 1.09 | < | 2.31 ± 1.12 |
| R | 3 | 外国人から英語などで話しかけられたとき、答えることができない | 2.68 ± 1.39 | < | 3.05 ± 1.14 |
| R | 4 | 外国語で書かれた新聞や雑誌に関心がない | 2.77 ± 1.24 | < | 3.19 ± 1.14 |
| R | 5 | 今後、外国語検定（英検・仏検・TOEFL・TOEICなど）を受験しようとは思わない | 3.24 ± 1.35 | | 3.34 ± 1.26 |
| R | 6 | 今後、さまざまな国の言語を学ぶ気はない | 3.38 ± 1.09 | | 3.49 ± 1.10 |
| ● | 7 | 自分の意見をきちんと主張できる | 3.29 ± .93 | | 3.44 ± .89 |
| ● | 8 | 他人の意見を聞ける | 3.84 ± .84 | < | 4.00 ± .82 |
| ● | 9 | 自分の考えと異なる人に対して、自分の意見を言える | 3.52 ± .93 | < | 3.68 ± .87 |
| ● | 10 | 他人の意見と自分の意見の相違がわかる | 3.78 ± .83 | | 3.86 ± .81 |
| ● | 11 | 相手の気持ちを理解しようとする | 3.99 ± .82 | | 4.05 ± .87 |
| ● | 12 | 言葉を交わさなくても相手の気持ちが分かる | 2.96 ± 1.03 | | 3.07 ± .96 |
| | | Ⅱの合計得点 | 37.55 ± 6.65 | < | 39.35 ± 6.19 |

| | | Ⅲ.他者との共同での問題解決能力（1回目α =.79／2回目α =.86） | 1回目の平均±SD | | 2回目の平均±SD |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 地球温暖化を防止するために、二酸化炭素などの排出を抑える努力をしていきたい | 3.45 ± 1.08 | < | 3.63 ± 1.02 |
| R | 2 | 世界平和の維持に関心がない | 3.57 ± 1.10 | < | 3.83 ± .95 |
| | 3 | 廃棄物による土壌・水・大気の汚染状況について知りたい | 3.01 ± 1.17 | | 3.06 ± 1.09 |
| | 4 | 世界の自然を守るために活動している機関を支援したい | 3.29 ± 1.06 | < | 3.48 ± .92 |
| | 5 | 第三世界の子どもたちが教育の機会に恵まれるように支援していきたい | 3.48 ± 1.08 | < | 3.71 ± .90 |
| ● | 6 | 困ったときに話し合って、アイディアを出そうと思う | 3.64 ± .93 | | 3.76 ± .84 |
| ● | 7 | 自分と意見や文化の背景が異なる人と協力できる | 3.49 ± .83 | < | 3.66 ± .87 |
| ● | 8 | 様々な困難な場面で自分に出来ることと出来ないことを考える | 3.78 ± .79 | < | 3.92 ± .74 |
| ● | 9 | 自分の思い通りにならないことでも問題を解決するために納得できる | 3.59 ± .84 | | 3.71 ± .91 |
| | | Ⅲの合計得点 | 31.63 ± 5.19 | < | 32.78 ± 5.66 |

| | | Ⅳ.海外・国際的交流への積極性（1回目α =.84／2回目=.81） | 1回目の平均±SD | | 2回目の平均±SD |
|---|---|---|---|---|---|
| ● | 1 | 海外へまた行きたい | 3.68 ± 1.30 | < | 4.30 ± 1.06 |
| ● | 2 | 将来、結婚相手として日本人以外の国の人を選ぶことがある | 2.60 ± 1.35 | < | 2.80 ± 1.28 |
| ● | 3 | 将来、同僚として外国人と仕事をしたい | 3.26 ± 1.23 | < | 3.45 ± 1.16 |
| ● | 4 | 外国人は、自分の国に誇りを持っている | 3.85 ± .99 | < | 4.11 ± .92 |
| ● | 5 | 英語以外の外国語を学びたい | 3.26 ± 1.27 | < | 3.54 ± 1.19 |
| ● | 6 | 同年齢の外国人が話せる程度に自分も英語を話せるようになりたい | 4.04 ± 1.12 | < | 4.19 ± .99 |
| ● | 7 | 海外経験を経て、日本にいる外国人に話しかけやすくなった | 2.96 ± .92 | | 2.95 ± 1.15 |
| | | Ⅳの合計得点 | 24.03 ± 5.54 | < | 25.46 ± 5.23 |

注1）全ての項目の得点範囲は，1点（あてはまらない）～5点（あてはまる）
注2）Rは逆転項目。得点の計算時に逆転処理済（1→5、2→4、4→2、5→1）
注3）●は元尺度にはなく、独自に追加された項目
注4）α 係数：質問紙の信頼性を測定する指標の1つ。.75以上が望ましい。
注5）SDは標準偏差の意

## 【資料２】　「総合的な学習の時間」係生徒の感想

「総合的学習の時間」係生徒の感想

※　「身を護る」についての発表を研究大会でやるときいたときは正直ずいぶん前にやったことだからあんまり覚えてないのになあ、と思いました。発表の準備では寸劇の前にはさむ太鼓の音は、あった方が面白くなるけどそうすると 15 分以上かかってしまうということで、そのぶん発表原稿を削ったりして結局前日の発表リハーサルまで話し合いました。また、この発表で自分たちの調べていた事件(すき家強盗について)をもう一度見直すきっかけになり、現在はどうなっているかなどを知ることができました。(女子)

※　自分は研究大会で発表など大きな仕事はなく、前日準備と片付けだけだったけど、一つひとつの仕事をやり遂げられたのは、自分にとっては、大きな成長になったのではないかと思います。ただ今後は今回みたいに、一つひとつの仕事をこなす事も大切だが、大きな仕事、また大きな役割になったときに、今回学んだことを忘れず、生かしていけたらいいと思います。3 年次、またそれ以降の人生を歩んでいく上で、今回の経験はとても為になりました。ありがとうございました。(男子)

※　今年初めて総合学習係をやってみて、いろいろ学ぶものがあったと思います。何故総合学習委員になったと聞かれれば、実際それは自分がなりたかった係りになれなかったからですが、今となって考えてみると、失敗ではなかったのではないかと感じています。係りの集まりによって、あまり話さない人との交流が生まれるし、面倒くさいものをみんなでやるというのは、友情を育む上での貴重な体験だった思います。一年間、総合学習係をやってみていろいろ楽しかったです。(男子)

※　私は、研究大会当日まで、ずっと発表するのが嫌でした。私だけ発表時間が 4 分間とすごく長く、なかなか発表する内容が思いつかず大変でした。私は、学校交流係委員長として研究大会に来て下さった方たちに交流会のことが伝わるように頑張って発表したつもりですが、発表でも言ったようにあまり話をするのが得意ではないので、しっかりと伝わったかどうかが心配でしたが、先生方に「よかったよ」と言われたので、すごく安心しました。また、このような機会があったら、もっとしっかりと発表できるように頑張りたいです。(男子)

※　自分は今回の研究大会の校外学習の発表で、ファームステイ代表として発表させていただきました。選ばれたときは、「なんで自分なんだよー、やりたくないなー」と思っていました。しかし、発表が近づくにつれて「せっかくの機会だから、いい経験にしよう！」と思い、前向きな気持ちで臨みました。発表自体は、自分なりになかなかよくできたと思うので良かったです。片付けについては、みんなで協力してできたのでとてもスムーズにできたと思います。これはとってもいいことだと思うので、いいことは続けて悪いところは改善していきたいと思います。(男子)

※　今回の研究大会を通して自分が思ったことは、自分たちが今までやってきたことをまとめて無事に来賓の方やみんなに伝えることができて良かったということです。校外学習前の最初にみんなにしおりを披露し、配ったときに自分は「しおり係は大変だった」と言っていましたが、そのときは具体的には伝えられなかったので、今回この大変さをさらに詳しく伝えられて満足しました。他の係の人達も頑張っていましたが、やっぱりしおり係が一番「とてもよくがんばったで賞!!」(男子)

※　今年の研究大会では自分も出さしてもらい良い経験になりました。初めはとても出たくなく、学校をさぼろうとしました。しかし、演技の練習を遅くまでやり何としても研究大会を成功したいと思う気持ちが強くなってきました。本番当日はとても緊張しましたが、「練習通りにやればいい」という先生のあったかい言葉を貰い無事演技をやりきることができました。とても人前に出るのが得意ではありませんが、これからはこの経験を活かして普段の生活や卒業研究などの残り少ない筑坂での学校生活を送りたいと思います。最後にこのような自分を成長できる場をくれた先生方、一緒に手伝ってくれた方々に感謝の言葉を送りたいと思います。ありがとうございました。(男子)

※　研究大会では、準備から当日の発表までパソコン操作をずっとやっていて、最初は「退屈そう」とか思っていたけれど「一学期の総合学習の時間」「校外学習係」「プレ卒研」それぞれの発表を聞いて発表の仕方や見やすいスライドについて学ぶことができました。これから先卒研の発表などでパワーポイントを使うことがあるのでその際に良い発表をできるよう今回学んだことを活かしていきたいです。(男子)

※　一番良かったなと思うことは、総合係として研究大会や校外学習に携われたことです。研究大会はこんなに多くの人間が準備をしているんだなーとか、校外学習のしおりにもこんなに時間がかかっている、ということが知れてしおりは大事にしようと思いました。僕は裏方の仕事が好きなので、総合係の仕事は楽しかったです。(男子)

「総合的学習の時間」係生徒の感想

※　「身を護る」についての発表を研究大会でやるときいたときは正直ずいぶん前にやったことだからあんまり覚えてないのになあ、と思いました。発表の準備では寸劇の前にはさむ太鼓の音は、あった方が面白くなるけどそうすると 15 分以上かかってしまうということで、そのぶん発表原稿を削ったりして結局前日の発表リハーサルまで話し合いました。また、この発表で自分たちの調べていた事件(すき家強盗について)をもう一度見直すきっかけになり、現在はどうなっているかなどを知ることができました。(女子)

※　自分は研究大会で発表など大きな仕事はなく、前日準備と片付けだけだったけど、一つひとつの仕事をやり遂げられたのは、自分にとっては、大きな成長になったのではないかと思います。ただ今後は今回みたいに、一つひとつの仕事をこなす事も大切だが、大きな仕事、また大きな役割になったときに、今回学んだことを忘れず、生かしていけたらいいと思います。3 年次、またそれ以降の人生を歩んでいく上で、今回の経験はとても為になりました。ありがとうございました。(男子)

※　今年初めて総合学習係をやってみて、いろいろ学ぶものがあったと思います。何故総合学習委員になったと聞かれれば、実際それは自分がなりたかった係りになれなかったからですが、今となって考えてみると、失敗ではなかったのではないかと感じています。係りの集まりによって、あまり話さない人との交流が生まれるし、面倒くさいものをみんなでやるというのは、友情を育む上での貴重な体験だった思います。一年間、総合学習係をやってみていろいろ楽しかったです。(男子)

※　私は、研究大会当日まで、ずっと発表するのが嫌でした。私だけ発表時間が 4 分間とすごく長く、なかなか発表する内容が思いつかず大変でした。私は、学校交流係委員長として研究大会に来て下さった方たちに交流会のことが伝わるように頑張って発表したつもりですが、発表でも言ったようにあまり話をするのが得意ではないので、しっかりと伝わったかどうかが心配でしたが、先生方に「よかったよ」と言われたので、すごく安心しました。また、このような機会があったら、もっとしっかりと発表できるように頑張りたいです。(男子)

※　自分は今回の研究大会の校外学習の発表で、ファームステイ代表として発表させていただきました。選ばれたときは、「なんで自分なんだよー、やりたくないなー」と思っていました。しかし、発表が近づくにつれて「せっかくの機会だから、いい経験にしよう！」と思い、前向きな気持ちで臨みました。発表自体は、自分なりになかなかよくできたと思うので良かったです。片付けについては、みんなで協力してできたのでとてもスムーズにできたと思います。これはとってもいいことだと思うので、いいことは続けて悪いところは改善していきたいと思います。(男子)

※　今回の研究大会を通して自分が思ったことは、自分たちが今までやってきたことをまとめて無事に来賓の方やみんなに伝えることができて良かったということです。校外学習前の最初にみんなにしおりを披露し、配ったときに自分は「しおり係は大変だった」と言っていましたが、そのときは具体的には伝えられなかったので、今回この大変さをさらに詳しく伝えられて満足しました。他の係の人達も頑張っていましたが、やっぱりしおり係が一番「とてもよくがんばったで賞!!」(男子)

※　今年の研究大会では自分も出さしてもらい良い経験になりました。初めはとても出たくなく、学校をさぼろうとしました。しかし、演技の練習を遅くまでやり何としても研究大会を成功したいと思う気持ちが強くなってきました。本番当日はとても緊張しましたが、「練習通りにやればいい」という先生のあったかい言葉を貰い無事演技をやりきることができました。とても人前に出るのが得意ではありませんが、これからはこの経験を活かして普段の生活や卒業研究などの残り少ない筑坂での学校生活を送りたいと思います。最後にこのような自分を成長できる場をくれた先生方、一緒に手伝ってくれた方々に感謝の言葉を送りたいと思います。ありがとうございました。(男子)

※　研究大会では、準備から当日の発表までパソコン操作をずっとやっていて、最初は「退屈そう」とか思っていたけれど「一学期の総合学習の時間」「校外学習係」「プレ卒研」それぞれの発表を聞いて発表の仕方や見やすいスライドについて学ぶことができました。これから先卒研の発表などでパワーポイントを使うことがあるのでその際に良い発表をできるよう今回学んだことを活かしていきたいです。(男子)

※　一番良かったなと思うことは、総合係として研究大会や校外学習に携われたことです。研究大会はこんなに多くの人間が準備をしているんだなーとか、校外学習のしおりにもこんなに時間がかかっている、ということが知れてしおりは大事にしようと思いました。僕は裏方の仕事が好きなので、総合係の仕事は楽しかったです。(男子)